

[計画名称]第二期山崎川流域浸水対策推進プラン

【愛知県名古屋市】

プランの概要

本プランは、山崎川流域において、頻発化する局所的豪雨による浸水被害を踏まえ、治水上ネックとなっている鉄道橋梁の改築及び河床掘削等を実施するとともに、想定し得る最大規模の洪水・内水が一体となった浸水想定を基に、避難の確保に関する情報等を記載したハザードマップの作成・普及・啓発などのソフト対策を実施し、浸水被害の軽減を図るものである。

○ 計画期間：令和2年～令和15年 ※

○ 事業費：約134億円 ※

※ 本プランと一体となって実施する道路・鉄道事業の計画期間・事業費を除く

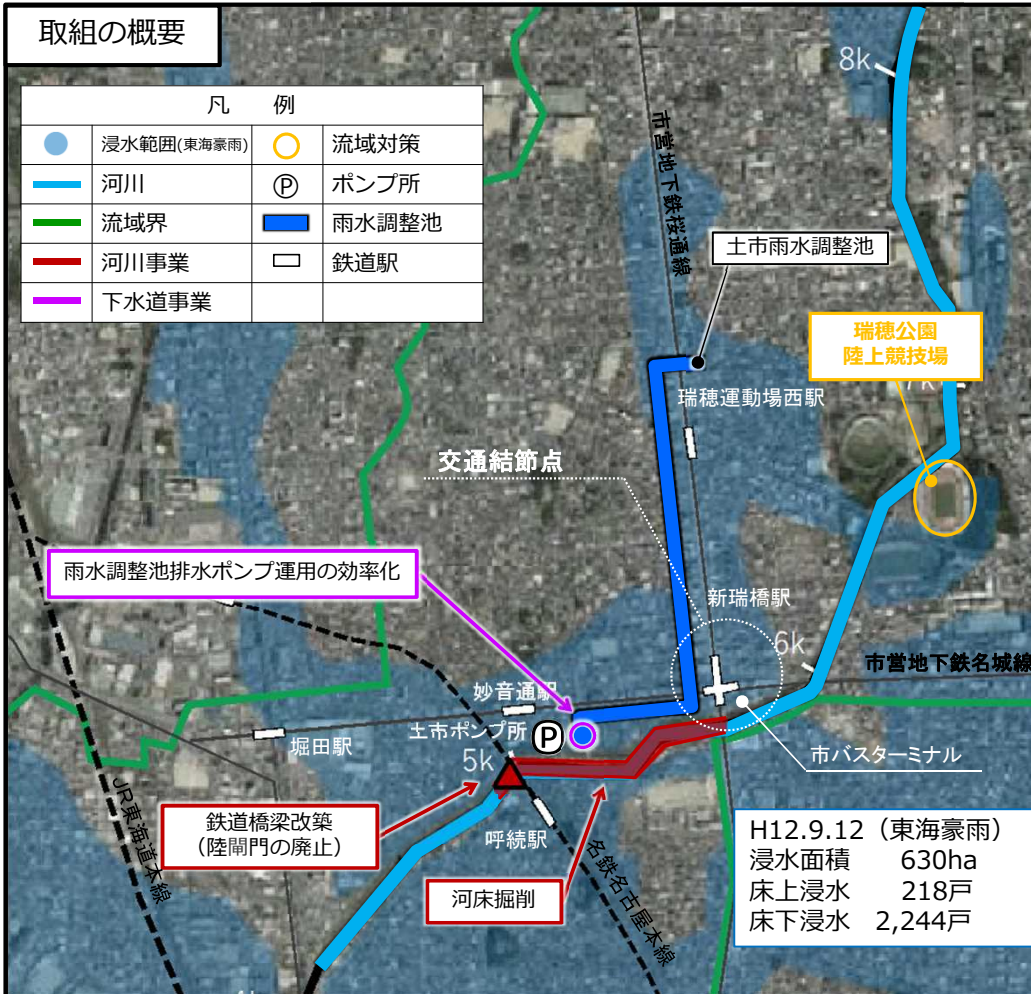
【近年の降雨実績等】

- ・山崎川流域では、過去から多くの浸水被害に見舞われ、平成12年東海豪雨では床上218戸、床下2,244戸の浸水被害が発生。
- ・近年、局所的豪雨が頻発化し、甚大な浸水被害が多発。愛知県における時間雨量50mm以上の発生回数は、
- ・S44～H5の25年間での発生回数は 6回
- ・H6～H30の25年間での発生回数は13回 → 約2.2倍
(観測地点：名古屋地方気象台)



取組の概要

凡 例			
●	浸水範囲(東海豪雨)	○	流域対策
—	河川	Ⓟ	ポンプ所
—	流域界	■	雨水調整池
—	河川事業	□	鉄道駅
—	下水道事業		



取組内容

○河川・下水道

- ・鉄道橋梁の改築及び河床掘削
- ・雨水調整池排水ポンプ運用の効率化

○流域対策

- ・名古屋市防災条例（H18.10月）に基づく雨水流出抑制対策
- ・公共施設、開発事業者による雨水流出抑制施設の整備
- ・道路、公園等における透水性舗装及び浸透雨水柵の設置

○危険情報周知、水防活動

- ・想定し得る最大規模の洪水・内水が一体となった浸水想定を基に、避難の確保に関する情報等を記載したハザードマップの作成、公表、全戸配布及び普及・啓発
- ・「地区防災カルテ」を活用した、浸水リスクの高い学区ごとの防災活動の実施
- ・インターネットを利用した雨量、水位情報、道路・河川のカメラ画像、ポンプ運転情報の提供
- ・名古屋市防災アプリによる現在位置の想定浸水深の可視化と避難場所の情報提供

鉄道橋梁改築



ハザードマップの改定



名古屋市防災アプリ



推進体制

組 織	名古屋市雨水流出抑制推進会議 (S62.3～)
市関係	上下水道局、防災危機管理局、総務局、財政局、市民経済局、観光文化交流局、環境局、健康福祉局、子ども青少年局、住宅都市局、緑政土木局、交通局、病院局、消防局、教育委員会

取組効果

- 交通結節点周辺地域における浸水被害を軽減 (H12東海豪雨時点から床上浸水約7割低減)
- 鉄道橋の架け替え (陸門の廃止) により、社会的損失 (鉄道運行休止) 及び氾濫リスクを軽減